

# 令和元年度 YCOG研究論文

## YCOG1008

Abdominal drainage may be a risk factor for surgical site infection following appendectomy. Murakami T, Wada T, Ishibe A, Akiyama H, Endo I. Asian J Surg. 2019;42(9):897-898.

## YCOG1205

High-Mobility Group Box 1 Expression Predicts Survival of Patients After Resection of Adenocarcinoma of the Ampulla of Vater. Murakami T, Matsuyama R, Ueda M, Mochizuki Y, Homma Y, Kameda K, Yazawa K, Izumisawa Y, Fukushima T, Kamimukai N, Yoshida K, Kamiya N, Hoffman RM, Endo I. World J Surg Oncol. 2019;17(1):140.

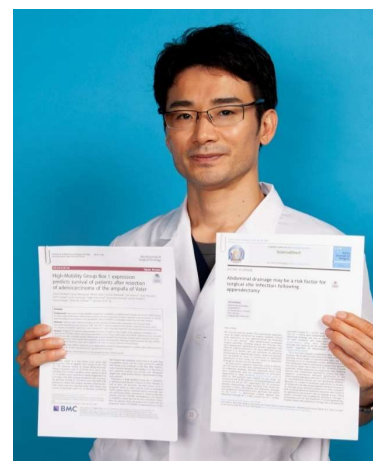
この度は2件のYCOG研究に携わらせて頂きました。

YCOG1008は和田朋子先生が尽力しデータ収集を行って下さいました。虫垂炎の臨床研究では、前向きでかつnがかなり多くなければなかなかAcceptに至らない状況がありました。しかしドレーン留置が虫垂炎のSSI予防に寄与するか否かを検討する本研

究のコンセプトは素晴らしいものと思い、データ解析をもとに最新の知見を併せて考察を加え、Asian J Surgに投稿させて頂きました。先方の勧めでLetter to the editorという形に構成し直すこととなり、Acceptを頂きました。

YCOG1205は、比較的まれな十二指腸乳頭部癌を多施設共同研究により集積し、新規予後因子を免疫染色により検索するという研究内容です。いくつかの候補蛋白を染色した結果、最終的にはHMGB1発現が予後不良因子となることが分かり、論文化させて頂きました。4度目の投稿でWorld J Surg OncolにAcceptして頂きました。時間を要してしまいましたが松山隆生先生に継続的にご指導を頂いたことで、なんとか形にすることができました。

この度はYCOG研究を通し、質の高い臨床研究を行う必要性を強く感じるとともに、科学的な考え方や論文執筆に関する多くの経験を得ることができました。このような貴重な機会をお与え下さいましたYCOGの先生方、ならびに尽力してくださったスタッフの方々へ、この場をお借りし深く御礼申し上げます。



平成18年卒 村上崇先生